

民具通信

第55号 2021年5月1日

浜田市金城民俗資料館内
西中国山地民具を守る会

波佐まるごと博物館スタンプラリー

浜田市金城資料館の指定管理者である西中国山地民具を守る会では、今年度計画していた文化講演会をコロナ感染予防の為、中止して代替事業として「波佐まるごとミュージアム」の範囲6箇所に小型記念スタンプ印を設置いたしました。

浜田市金城資料館2館を中心に、半径1Kmの範囲に所在する文化財等15箇所を「まるごと博物館」として、他団体とタイアップして平成17年から推進しています。金城資料館を訪れて、まるごとミュージアム巡りを希望される方には、付加価値として、スタンプラリーもお楽しみ下さい。

なお、金城資料館は、土・日曜日のみが開館日です。その他の日時を希望の場合は、事前予約が必要です。事前予約の場合は、TEL090-4697-2818へお願いします。金城資料館入館者へは、スタンプラリー帳(A5判カラー版4P)を進呈します。スタンプ設置場所は下記の通りです。「波佐まるごとミュージアム」巡りに併せてスタンプラリーをお楽しみ下さい。使用開始時期は、令和3年4月3日からです。

記

- ① 浜田市金城民俗資料館(図案：資料館、夜着、楮こしき)館内に設置。
- ② 浜田市金城歴史民俗資料館(図案：資料館、二丁鞆たたら、能海寛)館内に設置。
- ③ 天頂山浄蓮寺(図案：浄蓮寺、能海寛顕彰碑、能海寛詠歌碑)浄蓮寺境内に設置。
- ④ 大歳神社(図案：大樋神社鳥居、一本松城縄張り図、能海寛詠歌碑)大歳神社横に設置。
- ⑤ 常磐山八幡宮(図案：八幡宮、大杉、手水鉢、能海寛詠歌碑)八幡宮境内歌碑横に設置。
- ⑥ 普明山永昌寺(図案：永昌寺、大杉、尼子経久の墓、能海寛詠歌碑)永昌寺尼子の墓付近に設置。

【記念スタンプ】 ※「波佐まるごとミュージアム」を巡るコース内の6箇所に設置しています。

① 浜田市金城民俗資料館と歌碑



② 浜田市金城歴史民俗資料館



③ 天頂山浄蓮寺と能海寛師顕彰碑



④ 大歳神社と波佐一本松城跡



⑤ 常磐山八幡宮とカシ林遊歩道



⑥ 普明山永昌寺と尼子経久の墓



※ 6箇所には、スタンプボックスと小型ゴム印、スタンプ台がセットで設置しております。

文化財の保護活動推進

7月18日(日)、西中国山地民具を守る会は、金城資料館周辺の草刈り清掃作業を一斉に行いました。参加人数は10名で、4時間文化財の保護活動を行い。気持ちよく来館いただくために環境整備を行いました。笠松峠の畳石路の草刈り作業も合わせて実施しました。



生誕 150 年記念

ようらんき

企画展『島村抱月揺籃期展』

島村抱月生誕150年を記念して、全国に無い資料抱月の揺籃期を解き明かす貴重な資料群を展示しております。研究者が来館中です。特に、抱月の幼年期の初等教育が小国小学校で明治10年から明治14年までの4年間に、1学年(8級・7級)、2学年(6級・5級)、3学年(4級・3級)、4学年(2級・1級)の下等小学を終えて、久佐小学校で、2年間、上等小学1学年(8級・7級)=中等科2学年、2学年(6級・5級)=中等科3学年を修了して、高等科は浜田町で学んだ。小国小学校時代の初等教育に注目したい。



会場：浜田市金城歴史民俗資料館

浜田市金城町波佐イ 426-1 TEL 0855-44-0146

会期：6月5日(土) — 4年1月30日(日)

開館日：土・日曜日(9:00-17:00)隣接の浜田市民俗資料館と共通券です。

団体等で、上記以外をご希望の場合は、前日までに電話予約(☎090-4697-2818)下さい。

入館料：大人 300 円、中人 100 円、小人 60 円、団体割引は、25 名以上です。

只今、「波佐まるごと博物館」のスタンプラリー帳を提供中です。

民俗資料回想セラピー

11月12日(金)、くにびき学園21期サンゴの会(8名)は、民俗資料回想法メンタルケアセラピーのプログラムを体験されました。

- I 金城民俗資料館で民具を見学、昔の道具の使用回想。
- II 映像資料による回想(実践民俗学提唱で作成したもの)データに基づく映像視聴による過去の体験を回想し「心」の癒しを導き自己治癒力を促す。
- III 年中行事を中心にディスカッションで意見交換を行い、回想を引き出す。

民俗資料を通して、認知症の予防・抑制のために実施している「民俗資料回想セラピー」は、過去の体験を思い起こし自己治癒力を活性化させるものです。セラピー終了後、企画展「文豪・島村抱月揺籃期展」を見学されました。



金城民俗資料館囲炉裏の間



回想セラピー映像視聴

波佐一本松城を巡回

まるごとミュージアムをタイアップしている波佐文化協会主催の「なわて塾」第6回目講座が11月21日(日)、波佐一本松城現地見学会が行なわれました。午前9時に矢谷登山口をスタートして、堅堀、礮置き場、水撥ね施設、水堀、武者走り、武者溜り、横矢掛け、切岸、段切、主郭、腰郭、堅畝型阻塞、畝堀、土橋など3時間かけて巡回した。天然ナメコも沢山生えていました。

この山城は、城郭用語が学習できるほど多数の施設に恵まれた連郭式城郭で、防御を主とした山城です。水攻めの出来る山城は全国でも数少ないと考えられます。今月に入ってから、波佐文化協会では、波佐一本松城の案内標識、看板、説明板など20本の看板類を整備しました。巡回案内板の設置で迷わずに巡回出来るようになりました。

12月19日(日)には、第7回なわて塾「民俗資料回想セラピー」を午後7時から開催します。



主郭でのスナップ



巡回中のスナップ



下山後のスナップ

島村抱月生誕 150 年記念イベント

島村抱月は、明治4年1月10日、浜田市金城町小国下土居で生誕して150年を迎えます。浜田市金城歴史民俗資料館では、生誕150年を記念して、「島村抱月の揺籃期展」を開催中です。

会期は、1月30日です。この企画展に合わせて、「島村抱月の揺籃期と業績」と題して文化講演会を下記のとおり開催いたします。

記

第45回文化講演会

日時 令和4年1月16日(日) 午後7時～9時
会場 金城町波佐 ときわ会館
演題 『島村抱月の揺籃期と業績』
講師 隅田正三氏 (『文豪 島村抱月』の著者)
主催 西中国山地民具を守る会
後援 波佐文化協会
参加費 無料 (お気軽にお越しください。)



生誕 150 年記念

ようらんき

企画展『島村抱月揺籃期展』



会場：浜田市金城歴史民俗資料館 浜田市金城町波佐イ 426-1 TEL 0855-44-0146

会期：令和3年6月5日(土) — 令和4年1月30日(日)

開館日：土・日曜日(9:00-17:00) 隣接の浜田市民俗資料館と共通券です。

団体等で、上記以外をご希望の場合は、前日までに電話予約(☎090-4697-2818)下さい。

入館料：大人 300 円、中人 100 円、小人 60 円、団体割引は、25 名以上です。

変わりゆく私たちの暮らし

2月25日(金)に雲城小学校3年生17名が金城民俗資料館で「昔の人の暮らし」を学習しました。最初は、ときわ会館でパワーポイントによる映像学習「変わりゆく昔の暮らし」を隅田館長から30分間視聴して、民俗資料館へ移動。資料館ではタブレットを手に持ち民具を撮影して、関心のあるコーナーで自由に撮影、コメントを入力して熱心に見学していました。

質問タイムでは、いろいろの問で、民具について熱心に質問をしてくれました。終わりの会では、児童各自が見学学習の感想を述べ寒い中にもかかわらず、活発な発表をしてくれました。

今後は、学習成果を纏めて「かべ新聞」を作成するそうです。



ときわ会館で民具学習



民俗資料館で終わりの会の模様

波佐の緒職用具を調査

昨年調査を行っている「波佐の緒職用具」①鉄穴流し用具。②たたら製鉄用具。③鍛冶屋用具。④紺屋用具。⑤炭焼き用具。⑥屋根葺き用具。⑦養蚕用具。などの一覧リスト(全点数757点)、調査カルテの作成が、この程、終了しました。

明治30年のデータ「波佐物産一年見積」によると、収入の部では、「砂鉄、銑鉄、11,550貫目(一駄32貫、4円)高1,440円、(内錬鉄約5,000貫)。半紙120丸(一丸12,00枚)・高360円。繭15石・高450円。炭一万貫・高100円。板二百間・60円。四八枕木30,000本・高600円。摺附木1,200丸・高3,600円。菌20石・高400円。生柿及び干柿5,000連(50,000)・高100円、5石・高60円。山芋100貫。など輸出高7,230円。」の記録が残されている。

鉄穴流し、たたら製鉄は明治30年代を以て消滅し、鍛冶屋は平成10年に消滅。紺屋は昭和10年代で消滅。炭焼きは昭和30年代で消滅。屋根葺き作業は昭和30年代で消滅。養蚕は昭和10年代で消滅。

これらの緒職は地域の主要産業として地域経済を潤していました。緒職用具757点を浜田市指定民俗資料として申請する運びとなりました。



屋根葺き替え作業の模様

第54回定期総会開催

令和4年4月13日、ときわ会館にて、民具を守る会第54回定期総会を開催しました。令和3年度の事業報告、会計報告、令和4年度事業計画、予算案などが原案通り承認されました。今回、会員の稲生啓人氏が退会され、新たに佐田雅宏氏が入会され、17名の会員で4年度を運営していきます。役員改選では幹事の欠員により新たに岡本利道氏が選任され、その他は役員留任となりました。

指定管理の金城資料館の運営について協議を行いました。企画展は6月4日から12月25日まで、明治時代の特産品「海を渡った黒金」展の開催が承認されました。



まるごと博物館スタンプラリーの活用

スタンプラリーの利用者も徐々に浸透しています。資料館来館者に積極的にPRしましょう。



金城資料館囲炉裏の間



大歳神社で記念スタンプ



浄蓮寺のスタンプポスト

【記念スタンプ】 ※「波佐まるごとミュージアム」を巡るコース内の6箇所に設置しています。



浄蓮寺のハクモクレン

① 浜田市金城民俗資料館と歌碑



② 浜田市金城歴史民俗資料館



③ 天頂山浄蓮寺と能海寛師顕彰碑



④ 大歳神社と波佐一本松城跡



⑤ 常磐山八幡宮とカシ林遊歩道



⑥ 普明山永昌寺と尼子経久の墓



企画展「明治時代の特産品」—海を渡った黒金—

今回の企画展は、明治期の特産品10品目を展示しています。特に、「黒金」と称される「たたら鉄」を中心に、第2回万国博覧会へ出品された銑鉄と明治期に九州へ販路を開拓した経緯が判る売仕切証から博多、熊本の買付業者、海運業者との書簡などから明治期の銑鉄の流通が明らかになりました。



紙布とツヅリ織の衣類を貸出

萩博物館へ貸出していた民俗資料10点が6月24日に、里帰りしました。萩博物館では、春期特別展「百年の布」—美しき襦袢の世界—、3月19日～6月19日開催。下の写真は、左側からツヅリ、襦袢(麻布)、コデナシ(紙布)、田袴(紙布)、ツヅリ、ツヅリ織の緯糸、紙切り鎌、カッコ2点(紙布)、ジンベイ(紙布)です。8,000名の来場者があったと報告を受けました。



環境美化 6月26日実施

恒例の文化財保護活動の一環で実施している金城資料館周辺の環境美化のための草刈清掃作業を民具を守る会員7名で、実施しました。



文化財防火デーに伴う消防訓練

金城資料館自衛消防隊員による防火訓練が、1月28日(土)午前10時から、金城民俗資料館にて、東部消防署金城出張所隊員(三明正道さん・森下智広さん)の指導の下、消防総合訓練を行いました。

訓練終了後、会場を、波佐まちづくりセンターに移動して、AEDを使用して「心肺蘇生法(CPR)」を受講しました。

この消防防火訓練は、文化財防火デー(1月26日)にちなみ、昭和51年度から毎年、1月下旬に実施しているものです。



第 47 回文化講演会について

毎年開催している、文化講演会を下記の通り開催します。今回は、津和野高等学校教頭 阿部志朗氏をお招きして開催します。阿部氏は、島根県地質学会副会長として、江戸末期から明治期の海運による産物の流通を研究されており、今回は、石見の産物の流通をとおして、江戸末期に波佐産出の、たたら鉄が北前船で全国に流通し、明治期に九州へ流通した経緯をお話しいたします。

記

第 47 回文化講演会

開催日 令和 5 年 3 月 4 日(土) 午前 10 時～正午

会 場 波佐まちづくりセンター

演 題 「統計資料から探る明治期の石見の産物の流通」

—明治 30 年頃の各道府県統計書を手がかりに—

講 師 阿部志朗氏

主 催 西中国山地民具を守る会

受講料 無料

令和 5 年度企画展について

令和 5 年度の企画展は、「第 2 次 藍染型紙展」を、6 月 3 日(土)から開催予定です。

江戸末期、波佐地方の紺屋が使用していた型紙 500 点の内 60 点を公開展示します。型紙は、突彫、錐彫、道具彫、縞彫の 4 つの技法が組み合わされて製作されます。地元の型紙、白子型紙、京型紙を展示します。縞柄などは、染色時に模様がずれるため、型の補強の目的で「糸入れ」を行っています。



第47回文化講演会を開催

第47回文化講演会は、3月4日(土)10時から正午まで、金城町波佐のまちづくりセンターにて、開催しました。講師は、県立津和野高等学校教頭阿部志朗氏をお招きして、演題「『統計資料から探る明治期の石見の産物の流通』～明治30年代の各道府県統計書を手掛かりに～」を拝聴しました。

阿部氏は高校で地理を専門に社会科を指導する傍ら、休日には、石見焼き、北前船の研究のため国内外を行脚し、海運関係の論文を多数発表されています。本日は、北前船再考、客船帳から見た石見の産物の流通。物証としての石見焼・石州瓦、石州瓦の流通。「鉄」の流通。波佐の鉄の移出先は？。都府県統計書に見る石見の産物の流通。など、映像を交えて、16年間で400箇所以上の現地調査を踏まえて、お話しを頂きました。



阿部志朗氏の講演



会場の模様



会場風景

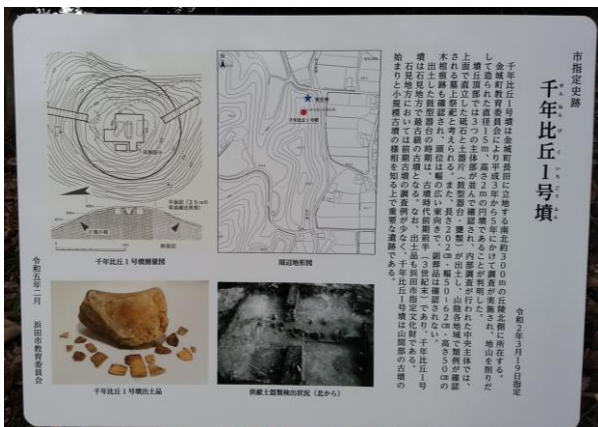
市指定文化財看板設置

浜田市教育委員会は、市指定文化財・史跡2箇所、この程、案内看板を設置されました。新たな設置場所は、金城町長田の「千年比丘1号墳」と金城町波佐の「波佐一本松城」です。

「千年比丘1号墳」は、4世紀前半の円墳(直径15m)石見地方最古の古墳で令和2年3月に史跡指定となった。出土品も一括で、市指定文化財となっています。

「波佐一本松城」は、平安末期の築城とされ、風水による造作がなされ、水堀と水撥ね施設のある特異な縄張りの山岳城郭です。昭和62年12月に史跡指定となりました。

今回、2箇所の案内看板の設置で、見学者により詳細な内容が学べて現地踏査が楽しいものとなりました。波佐文化協会では、波佐一本松城ガイド(3時間コース・22箇所)を行っています。



千年比丘1号墳の立看板



波佐一本松城の立看板

第54回定期総会開催

令和5年4月13日、ときわ会館にて、民具を守る会第55回定期総会を開催しました。令和4年度の事業報告、会計報告、令和5年度事業計画、予算案などが原案通り承認されました。今回、会員の岩田正喜氏が退会され、16名の会員で5年度を運営していきます。

役員改選では幹事の隅田勝幸氏の辞任により監事の小林敏夫氏が選任され、監事に佐田雅宏氏が選任されました。その他は役員留任となりました。

今年は、金城民俗資料館開館50周年を迎えることで、指定管理の金城資料館の運営について協議を行いました。企画展は6月3日(土)から12月24日(日)まで、「藍染の型紙展」―江戸時代の紺屋の型紙―の開催が承認されました。総会の後にガイドなど接遇について協議しました。



スタンプラリーの地図を作製

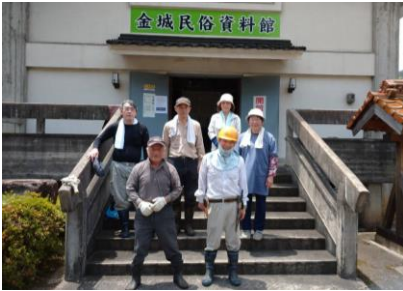
民具を守る会が設置した、「波佐まるごとミュージアム」のスタンプラリーは、資料館来館者に好評をいただいています。この度、A1判のポスター(記念スタンプ設置場所)を作成して利用周知を図っています。

6月～開催の企画展の事前周知看板も資料館内に設置しました。



環境美化 6月25日実施

恒例の文化財保護活動の一環で実施している金城資料館周辺の環境美化のための草刈り清掃作業を6月25日(日)に民具を守る会員が7名で実施しました。4時間の作業で見違えるように綺麗になりました。



企画展『藍染の型紙展』—江戸時代の 紺屋の型紙— 好評開催中！

今回展示している藍染型紙は、江戸時代の文化・文政(約200年前)から津和野藩時代に紺屋職を営んでいた室屋谷源右衛門(金城町長田)から堂迫紋治に受け継がれ、明治中期まで藍染を行った。その子孫から昭和48年に492点の藍染型紙をご寄贈いただいたものである。

三重県の白子型紙・京型紙・地元産の型紙の3種類を収蔵しており、型紙の中には、漆を用いた型紙もあります。型紙は4通りの技法で彫刻され、型紙の下部及び左上には、仕入業者の印影が押印されており兄弟型紙の全国への流通調査も可能となります。今回は、70点の型紙を展示しております。



山陰中央新報

2023.6.28

職人技伝わる型紙



多彩なデザインの藍染めの型紙を紹介する隅田正三館長＝浜田市金城町波佐、金城歴史民俗資料館

【浜田】江戸末期から明治中期に使われたとされる藍染めの型紙を紹介する企画展が浜田市金城町波佐の金城歴史民俗資料館で開かれている。植物や図形などをあしらった職人の技が伝わる70点が目を引く。12月24日まで。

型紙は藍染めで模様を付けた紙を、柿渋を使って重ねて貼る。長期の藍染めに耐えられるよう強靱な紙質に仕上げられる。型紙にある模様は一度に7〜8枚の型紙を重ね、丸や直線、花びらの柄に合わせて数百本の小刀を駆使しながら彫って作る。

会場には菊の花や中心から外に広がる渦模様のほか、傘を差すカエルの絵柄といった手彫りとは思えない寸分の狂いもない多彩なデザインが並ぶ。

隅田正三館長(81)は「寄贈されなかったらおそろく焼却処分されていた。これだけ型紙が残るのは貴重」と話した。

開館時間は土、日曜日の午前9時〜午後5時。平日は予約が必要。問い合わせは隅田館長、電話099(4697)2818。

(宮廻裕樹)

冊子「学べる博物館」を発行

チベット巡礼探検家能海寛、文豪島村抱月のふるさと金城町「波佐まるごと博物館」を平成 17 年度から推進して、18 年間、全国からの来朝者のガイドを行ってきました。

浜田市金城民俗資料館・浜田市金城歴史民俗資料館の 2 つの資料館を郭として、半径 1Km の範囲に位置する文化施設 15 か所をまるごと博物館として、巡回見学ができます。コース内には、能海寛歌碑巡りコース(歌碑 10 基)、まるごと博物館スタンプラリーコース(6 施設)、中世の山城と畳石路コース、たたら製鉄資料とたたら関係遺跡めぐりコース、常磐のカシ林遊歩道で自然観察コース、民俗資料回想セラピーなどが利用できます。

この度、金城民俗資料館を中心とした、観光施設を判り易く解説した PR 用の冊子『学べる博物館』カラー版 24P。発行者西中国山地民具を守る会が発刊しました。

市指定史跡「千年比丘 1 号墳」、「波佐一本松城」、「笠松峠の畳石路」。みんなで守る郷土の自然地域「常磐のカシ林と大杉」なども掲載しています。また、歌碑の設置位地図、記念スタンプ設置地図、波佐の観光スポット写真なども併せて掲載しています。「学べる博物館」に一度足を運んでください。お問合せは、☎090-4697-2818 (事務局)まで。



11月3日(金) 文化の日は、金城民俗資料館開館 50 周年記念として、臨時開館日といたします。当日は、午前10時、午後2時には、特別ガイドを致します。

浜田市金城民俗資料館開館 50 年記念講演会のご案内

金城民俗資料館が昭和 48 年 11 月 3 日に開館して、今年で満 50 年を迎えました。諸職用具(鉄穴流し用具、たたら製鉄用具、鍛冶屋用具、炭焼き用具、屋根葺き用具、紺屋関係用具、養蚕用具など)を通して、地域の特産、経済、流通など昔の暮らしを紐解きます。

日時 令和 5 年 11 月 19 日(日) 午前 10 時～正午

演題 「民俗資料保護活動 50 年」

—波佐の諸職用具に学ぶ昔の暮らし—

講師 金城資料館長 隅田正三氏

会場 金城町波佐 波佐まちづくりセンター

主催 西中国山地民具を守る会

料金 無料

※ 企画展「藍染の型紙展」(会期 12 月 24 日(日)まで) を併せてご覧ください。

金城資料館開館50周年記念講演会を開催

昭和48年1月3日に開館した金城民俗資料館が50周年を迎えたことから、19日(日)に、ときわ会館において、記念講演会が開催されました。浜田市教育委員会山本克也文化スポーツ課長の祝辞、大屋俊弘県議、邑南町の中山光夫氏から祝詞をいただきました。波佐出身の有志から50周年お祝いの花束も頂戴しました。

演題は、「民俗資料保護活動50年」―波佐の諸職用具に学ぶ昔の暮らし―で、金城資料館の隅田館長がパワーポイントで50年間にわたる西中国山地民具を守る会(16名)の文化財の保護啓蒙活動を通して、金城資料館の指定管理・運営を行い後世へ伝えていく活動と諸職用具をとおして明治期の社会の変動と諸職の変化を講演されました。

講演会場には、パネル展示や先に刊行された『学べる博物館』、『50周年の歩み』などが参加者に贈呈されました。



記念講演会の模様



祝50周年の花束

山本克也文化スポーツ課長祝辞

たたら製鉄遺跡見学会

11月21日(火)午後から萩市の福栄文化遺産活用保存会(小野興太郎会長)一行7名の皆さんが波佐地内のたたら関係遺跡を巡る見学ツアーを行いました。

見学コースは浜田市金城歴史民俗資料館(たたら製鉄用具)⇒金城民俗資料館⇒大潰鉄穴遺跡⇒栃下鉦遺跡⇒桂迫鉦遺跡⇒石見地域研究センター(たたら関係映像視聴)のコース順に現地見学会が行われました。

桂迫鉦では、吹き小屋や勘場が風水の見立てによる設置であること。積雪地帯であることから丸打ち型吹き小屋であったこと。小舟の陥没箇所と風水絵図面を照合して、小舟の位置や小鉄小屋、小鉄洗い場、銑池の位置が判る遺跡であることなどを現地で確認しました。



金城歴史民俗資料館をバックに



石見地域研究センターにて

文化財研修旅行

11月26日(日)、4年ぶりに文化財研修旅行を実施しました。午前7時ときわ会館を出発、一路伯耆路へと向かった。午前10時過ぎ、大山町の妻木晩田遺跡に到着。ボランティアガイドさんに1時間程懇切丁寧な案内で、洞ノ原地区の弥生遺跡と弥生の館の館内の見学をしました。地元の七渡瀬Ⅱ遺跡の竪穴式住居跡(弥生時代)を念頭に置き、復元されている住居を見学しました。

正午から隣接している米子市淀江町の上淀廃寺跡を見学後、上淀白鳳の丘展示館を見学し古代のロマンを体感しました。

昼食は、1時30分から境港市の「海心」で今月解禁されたカニを食しました。3時40分から米子城に登頂し本丸跡から大山、弓ヶ浜など360度パノラマで眺望しました。標高90mを20分かけて登山しました。本丸の石垣は見事な造作でしばらくの間、見とれました。

駐車場横に設置されていた「米子城跡」のパンフレットで、戦国期の築城から明治2年の藩庁に引き渡された歴史の流れを理解することが出来ました。約1時間で下山し、5時に米子を出発し、7時30ときわ会館へ無事到着。今回のドライバーは、岡本勇人氏にお願いしました。

今回の目的は、展示施設、看板類の表記、受付カウンターでの接客、ボランティアガイドさんの待遇などを学ばせていただきました。

今回の研修旅行で、今年の事業は全て終了しました。あと年明けの消防防火訓練(総合)には、挙ってご参加下さい。



米子城本丸跡から大山をバックに



妻木晩田遺跡でボランティアガイドさんと



洞ノ原地区を視察



弥生の館展示室

「かわってきた人々の暮らし」学習

雲城小学校3年生34名が1月26日(金)、浜田市金城民俗資料館へ校外学習に出かけました。「かわってきた人々の暮らし」をテーマに民俗資料の見学をしました。

児童代表挨拶の後、隅田館長から館内の民具の説明を行い、自由見学では各自持参のタブレットで民具の写真を撮影し、質問を受けながら学習を行いました。個人学習の後、囲炉裏の間で昔の生活の様子などを話し囲炉裏端の体験もしていただきました。

最後に、感想発表が行われ、児童代表の挨拶で校外学習が終わりました。



金城民俗資料館のいろいろの間で体験



金城資料館展示室にて

文化財防火デー／消防総合訓練

昭和24年1月26日に法隆寺の金堂の壁画が焼失したことで、この火災を教訓に昭和25年に文化財保護法が制定され、30年には、「文化財を火災から守ろう」とのスローガンから1月26日を文化財防火デーと制定されました。金城資料館も半世紀に亘り消防総合訓練を実施してきました。

今年は、1月27日(土)、東部消防署金城出張所(天津氏・石田氏)の指導の下で、金城自衛消防隊と波佐スポーツ少年団、波佐まちづくりセンターと共催で消防総合訓練とAED(自動体外式除細動器)等による救命救急処置や蘇生訓練を実施しました。



消防訓練に参加の皆さん



AEDを用いた訓練の様様

第56回定期総会開催

令和6年4月11日、ときわ会館にて、民具を守る会第56回定期総会を開催しました。令和5年度の事業報告、会計報告、令和6年度事業計画、予算案などが原案通り承認されました。会員改選では役員が再任され、16名の会員でアンケート調査のコメント事項を参考にお客様目線で6年度を運営していきます。

昨年は、金城民俗資料館開館50周年という節目の年度でした。気持ちを新たに指定管理の金城資料館の運営について協議を行いました。本年度の企画展は6月1日(土)～12月28日(土)まで、『明治期の鉱業法に見るたたら製鉄』—浜田県時代のたたら製鉄—の開催が承認されました。企画展開催前に「企画展ガイド」など接遇について研修会を開くことが決定しました。



令和6年度企画展

「明治期の鉱業法に見るたたら製鉄」

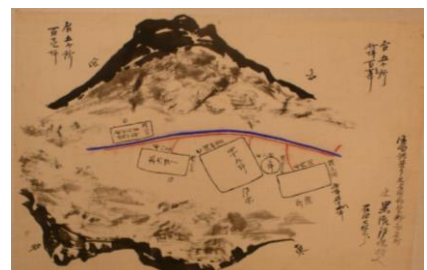
—浜田県時代のたたら製鉄—

会期：令和6年6月1日(土) — 12月28日(土)

会場：浜田市金城歴史民俗資料館

【内容】 古来より盛んであった「たたら製鉄法」は、明治維新後、大きく変容した。反射炉による洋鉄の生産によって、たたら産業が大きく衰退する中で、明治6年7月、「日本坑法」が布告され、浜田県(M4.6—9.11)時代に、借区開坑9条により、旧那賀郡内の、鉄山関係者の砂鉄採集、鈮経営、鍛冶屋経営者が、借区世話掛佐竹要助が取りまとめの仲介事務処理をしたことで、浜田県との往復公用文書によって、旧那賀郡内12箇所の申請書、絵図面などの写により、石見地方の終末期のたたら製鉄の稼働状況の全容が把握される。

また、「銑鉄不景気諸鉄山議定書」8年7月によると石見地方のたたら製鉄関係の経営者が挙って、議定書に参加している。その数、鈮経営者20名。鍛冶屋経営者2名。が終末期の経営形態、労賃などが把握され、当時の経営難が理解できると共に、この企画展を通して、石見地方のたたら経営の終末期を伺うことが出来る。



浜田県時代のたたら製鉄産業

今回、金城歴史民俗資料館では、企画展「明治期の日本坑法に見るたたら製鉄」を開催中です。浜田県時代の石見地方のたたら産業に特化した企画展です。会期は、12月28日(土)迄です。

浜田県の歩み

明治4年6月25日、津和野藩を廃し、浜田県となる。同年5月には、浜田県内の郡毎に郡役所が置かれた。そして、明治9年4月、浜田県を島根県に合併となる。

那賀郡	本庁にて取扱。	迹摩郡安濃郡	大森に役所を置く。
美濃郡	益田に役所を置く。	鹿足郡	津和野に役所を置く。
邑智郡	市山に役所を置く。		

浜田県時代の鉄山関係

砂鉄開業製坑社取調中世話掛 (部別)	(鉄山経営者)	佐竹要助課 (村名)	(鉦場名)
迹摩郡静間部	前原 浅右衛門	都川村	政ヶ谷鉦
邑智郡竹原部	野田 寛六	鼠原村	八ツ木鉦
同郡矢上部	天川 律三郎	同村	石ヶ坪鉦
同郡都賀本上部	前川 口次郎	西谷村	黒瀬鉦
同郡上田部	永井 弥惣治	同村	栃下鉦
那賀郡西谷部	佐竹 要助	小国村	田野原鉦
同郡井野部	領家 敷弘	長安村	大前鉦
同郡上津井部	藤井 嘉作	青原村	青原鉦
同郡千田部	佐々木 清儔	都川村	都川鍛冶屋
明治7年5月3日 大区役所		上来原村	上来原鍛冶屋
※ 各部から9名の世話掛が任命され、申請手続きを仲介した。		砂鉄方	都川村
		同	鼠原村

金城資料館並びに周辺的环境整備

6月23日(日)に、金城資料館と周辺的环境美化のための草刈奉仕作業を実施しました。毎年実施しているもので、今回は、資料館内の楮窯の修復作業も併せて実施した。



